

報道関係者各位

2026年5月15日  
株式会社内田洋行

## 内田洋行、東京国立博物館の来館者体験に新たな提案 “きょう、出会う一点”を提示するインタラクティブ空間を構築 ～体験型展示スペース「日本美術のとびら」にて、2026年6月30日より一般公開～

株式会社内田洋行(本社:東京都中央区、代表取締役社長:大久保 昇)は、2026年6月30日より公開される東京国立博物館(東京都台東区)本館1階B室の体験型展示「日本美術のとびら」のリニューアルコンテンツを受託し、文化財活用センター(東京都台東区)と制作いたしました。約12万件に及ぶ収蔵品の中から、その日に館内で鑑賞できる約3,000件の作品との出会いを可視化し、来館者が“いま、この瞬間に出会うべき一品”を発見できる体験を設計しました。

本リニューアルでは、本館の日本美術展示への導入空間である「日本美術のとびら」を進化させ、幅14メートルの巨大スクリーンによる体験型展示「とーはくワンダーウォール〈一期一会〉」を構築しました。

展示のコンセプトは「一期一会」。来館者の操作に応じて当日展示されている文化財をインタラクティブに提示し、膨大なコレクションの中から“名品たちとの新しい出会い”へと導きます。



※本事業は、「東京国立博物館及びその収蔵品を幅広く紹介し各展示館への誘導機能を果たすデジタルコンテンツ制作及び会場設備設計等業務」プロジェクトとして独立行政法人国立文化財機構文化財活用センターと共同制作しました。

### 体験型展示「日本美術のとびら」から、新しい鑑賞体験を

「日本美術のとびら」は、ともに独立行政法人国立文化財機構に属する東京国立博物館と文化財活用センターが主催する体験型展示です。文化財活用センターは、多くの人びとが、文化財を通して豊かな体験と学びを得ることができるよう、文化財を活用したインタラクティブなコンテンツやプログラムの開発を行っており、本展示も、文化財に親しむ機会の創出というセンターの使命に沿って企画されました。

東京国立博物館(以下、東博)は、国宝・重要文化財をはじめとする日本美術の中核を担う文化財を多数所蔵し、日本の文化継承と歴史的アイデンティティを体現する、日本を代表する文化の中心的存在です。

一方で、収蔵品が膨大であることに加え、展示館が複数あることや、展示替えも定期的に行われることから、来館者にとっては“どこで何を見るべきか分からない”という声もありました。「とーはくワンダーウォール」は、その壮大な展示世界への“入口”として、来館者の好奇心を喚起し、鑑賞体験をより主体的で豊かなものへと導きます。東博のWEB情報や収蔵品データベース「[ColBase](#)」※を活用し、“その日展示されている文化財と出会う”体験を起

点に、多様な興味関心に応じて文化財を提示する仕組みを構築することで、新たな展示導入のあり方を提案。内田洋行は、文化財活用センターと協同し、デジタル技術と空間設計を融合し、文化財との出会いを「情報」から「体験」へと進化させ、日本文化の中心である東博において、来館者一人ひとりにとっての“一期一会の名品”との出会いを創出します。

本コンテンツは、本館 1 階の右手奥に位置する B 室「日本美術のとびら」に常設されるものです。映像とインタラクティブ体験、さらに音楽演出を融合させることで、来館者の興味・関心に応じた文化財との出会いを創出します。

※ColBase: 国立文化財機構の東京・京都・奈良・九州の 4 つの国立博物館と東京・奈良の 2 つの文化財研究所の所蔵品、および皇居三の丸尚蔵館の収蔵品の貴重な文化財を横断的に検索できる統合検索システム。文化財活用センターが運営し、誰もがオンラインで気軽に作品を閲覧し、その魅力を活用できる。

## 「とーはくワンダーウォール」を構成する2つのパート

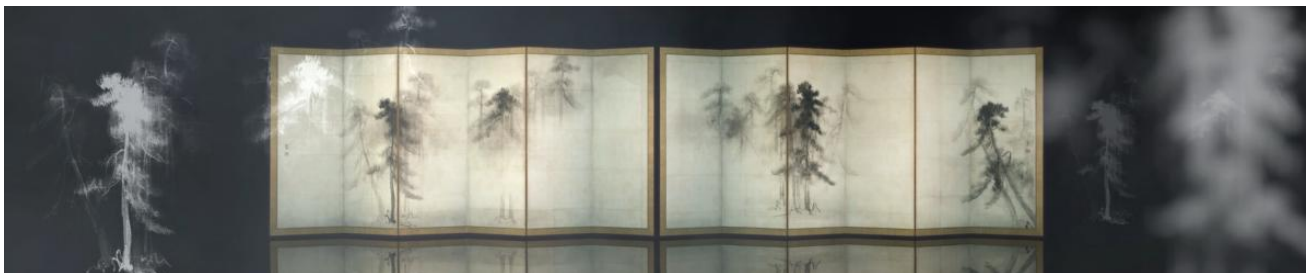
### ■ 150 年の歴史と名品をめぐる特別映像作品 (ショートムービー)

来館者が東博の全体像をつかむ“入口”として、約 2 分間のスペシャル映像を制作しました。本映像は、実際の展示では必ずしも出会えるとは限らない名品に対し、“確実に名品に出会える場”としての役割も担い、博物館体験の導入として機能します。

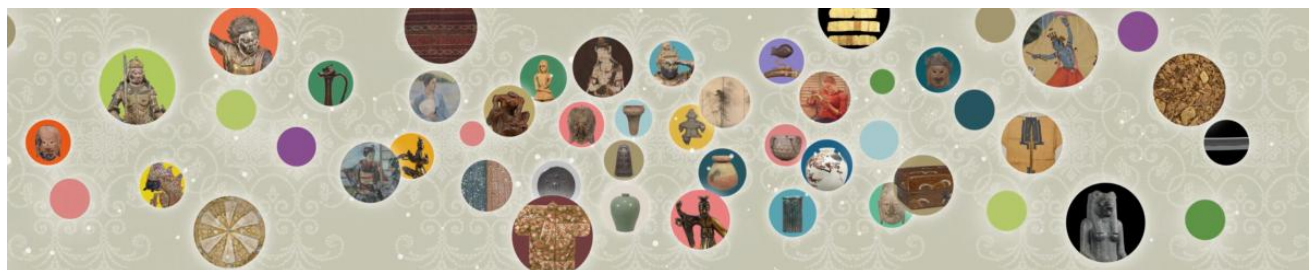
1872 年の湯島聖堂博覧会にはじまり、2022 年の創立 150 周年に至るまでの歩みを軸に、日本美術およびアジアの文化財が持つダイナミックな広がりを、映像と音楽による演出で表現しています。

映像には、「松林図屏風」や「片輪車蒔絵螺鈿手箱」<sup>かたわぐるままきえらでんてぼこ</sup>、「古今和歌集(元永本)」、「十二神将立像」<sup>いろはげつ</sup>、「色絵月梅図茶壺」<sup>ぼいずちやづぼ</sup>、「老猿」<sup>ろうえん</sup>、「伎楽面」<sup>きがくめん</sup>、「摩耶夫人および天人像」<sup>まやぶにん</sup>、「遮光器土偶」など、東博を代表する名品が登場し、時代やジャンルを超えた多彩なコレクションの魅力を体感的に伝えます。

また、それぞれの名品が持つ背景や魅力が自然に伝わるよう、見どころのポイントを映像の中にさりげなく織り込みました。文字情報に頼らずとも、国宝や重要文化財といった名品が歩んできた物語や、その奥にある価値に触れ、来館者が愛着をもって感じられる構成としています。



長谷川等伯筆 国宝「松林図屏風」の世界に包まれる、風を感じる演出



約 12 万件の収蔵品の中から厳選された名品が、映像として現れる

## ■きょう、出会う一点へ導く、体験型インタラクティブコンテンツ



モーションセンサーにより、体の動きに合わせてリズムカルに操作を楽しめる仕掛けを導入

来館者の興味関心に応じて東博のコレクションとの出会いを創出するコンテンツを展開しています。映像の前に立つと体験が始まり、当日展示されている約 3,000 件の作品情報と連動しながら、6 種類の切り口の中からランダムに選ばれた 4 種類のコンテンツがリアルタイムに生成・表示されます。

コンテンツには、研究員が専門的知見をもって選び抜いた名品を紹介する「研究員の推しと出会う！」コーナーをはじめ、ガラポンのようにくじを回し「何が当たるかはその日のお楽しみ」として文化財と出会う仕掛け、「東博をめぐるお宝と出会う！」として法隆寺宝物館・黒田記念館などの少し離れた展示館の名品へと誘うコンテンツなど、常に新しい多様な切り口を用意しています。

文化財活用センターの方々と共に、名品が生まれた背景や文脈を織り込み丁寧に設計することで、本質的な価値に触れる“出会い”として文化財を体験できる仕組みとしました。さらに、音楽制作や映像演出に加え、空間全体として心地よく過ごせる音響設計にも配慮することで、体験の質を高めています。展示全体を貫く世界観のもと、国籍を問わず子どもから大人まで幅広い来館者が楽しめるよう、宝探しのようなワクワク感を創出しています。

### 文化財活用センターについて

文化財活用センター(愛称:ぶんかつ)は、2018年に国立文化財機構のもとに設置された、文化財活用のためのナショナルセンターです。文化財の「保存」と「活用」のバランスをとりながら、その価値を最大限に引き出し、次世代へ継承することを目的としています。「文化財を 1000 年先、2000 年先の未来に伝えるために、すべての人びとが、考え、参加する社会をつくる」というビジョンのもと、より多くの人々が文化財の魅力に触れ、誰もが文化の継承の担い手となる社会の実現に向けて様々な活動を展開しています。

#### 文化財活用センター



<https://cpcp.nich.go.jp/>

Instagram @cpcp\_nich  
ぶんかつ【文化財活用センター】  
[https://www.instagram.com/cpcp\\_nich/](https://www.instagram.com/cpcp_nich/)

YouTube @cpcpnich  
ぶんかつ【文化財活用センター】  
<https://www.youtube.com/@cpcpnich/>

X(Twitter)  
@cpcp\_nich  
[https://x.com/cpcp\\_nich](https://x.com/cpcp_nich)

## 文化財を“体感”へと再構築する映像制作

企画・映像制作・音楽制作・演出は、内田洋行グループ(パワープレイス株式会社、内田洋行共創システムデザイン課、内田洋行ユビキタスライブラリー部)が担当いたしました。本件に携わる制作チームは、2013年の東京国立博物館「書聖 王羲之<sup>おうぎし</sup>」展、2019年の東京国立博物館「顔真卿<sup>がんしんけい</sup>」展における書跡の再現映像制作に加え、2025年には九州国立博物館開館20周年記念特別展「九州の国宝 きゅーはくのたから」において、「蘭亭図巻<sup>らんていずかん</sup>(永楽本<sup>えいらくほん</sup>)」を題材とした3D映像の制作・提供を行うなど、文化財の魅力を映像で再構築してきた実績を有しています。本プロジェクトにおいては、映像の完成度の高さに加え、現在の東京国立博物館が発信する「新しさ」と「楽しさ」を感じさせる表現、アニメーションの色合いやポップすぎない可愛らしさが評価されました。また、名品の出会いや宝探しのきっかけとなる多様な切り口での紹介を組み込んだ点も高く評価され、採択の決め手となりました。これまで培ってきた技術と表現力をもとに、本作では文化財の魅力を損なうことなく、「体感」できるコンテンツとして再構築することで、来館者の興味や理解を自然に引き出すことを目指しました。これらの取り組みは、まだ知られていない日本各地に眠る“宝”や地域独自の文化・自然・精神性の魅力を引き出すものです。

内田洋行グループでは、今後も博物館や図書館、教育施設における空間演出や教育コンテンツの制作を通じて、日本の宝と地域の誇りをより深く伝えるための技術的な挑戦を続けてまいります。

## 展示情報

東京国立博物館 本館1階B室「日本美術のとびら とーはくワンダーウォール〈一期一会〉」

■オープン日:2026年6月30日(火) ※5月18日(月)～6月29日(月)までリニューアル工事のため閉室

■会場:東京国立博物館 本館1階B室(台東区上野公園13-9)

■開館時間:9:30～17:00(入館は閉館の30分前まで)

※毎週金曜日と土曜日は夜20:00まで開館

※東博コレクション展の開館時間に準じます。

■休館日:月曜日(ただし月曜日が祝日または休日の場合は開館し、翌平日に休館)、年末年始、その他臨時休館あり。

■観覧料:(東博コレクション展)一般1,000円、大学生500円、高校生以下無料

※東博コレクション展観覧料または開催中の特別展観覧料(観覧当日に限る)でご覧いただけます。

■ホームページ:<https://www.tnm.jp> ※休館日など詳細は東博公式HPをご確認ください。

【本件に関するお問い合わせ先】

株式会社内田洋行 広報課 佐藤 将一郎・深澤 琴絵  
TEL. 03(3555)4072 FAX. 03(3555)4620

国立文化財機構 文化財活用センター

E-mail : [cpcp@nich.go.jp](mailto:cpcp@nich.go.jp) TEL : 03(5834)2856(直通) FAX : 03(5834)2857